

理事長所信

社団法人宜野湾青年会議所
第37代理事長 宮國 恵作

はじめに ～36年分のありがとうを～

1978年、スポンサーJICである沖縄青年会議所のお力添えのもと、先輩諸兄の熱い思いを胸に、1市2村をエリアとする宜野湾青年会議所が誕生しました。そして、より公の組織へと昇華するため、社団法人格を取得し、広く「明るい豊かなまちづくり」運動を邁進してまいりました。この街にJICの灯を燈し、その灯を絶やすことなく継承されてこられた先輩諸兄に対しまして、これまでのたゆまざる努力と情熱に敬意を表すとともに、現役に対するご厚情に、深く感謝の意を表します。

さて、公益法人制度改革に則し、公益取得に向け準備を進めてまいりました我が宜野湾青年会議所は、いよいよ公益社団法人「元年」を迎えます。連綿と引き継がれてきた運動は、これからもゆるぎなく公のための運動である必要があるのは当然ですが、これからは運動内容、財政状況、事務的手続きまで細やかに対応していかなければなりません。我々は公に開かれた組織であるということに自覚して、他の団体の模範となる組織作りを進めるとともに、青年としての英知と勇気と情熱を持って、青くさく、泥くさく、宜野湾JICらしく「明るい豊かなまちづくり」を目指し共に取り組んでまいりましょう。

普天間基地問題 ～動かざること山の如し～

昨年、沖縄県は本上復帰40周年を迎えました。この40年間、本上との格差を埋めようと様々な問題を解決しながら、日覚しい発展を遂げた沖縄県は観光立県を確立しました。しかしながら取り組むべき課題や解決しなければならない問題は今なお山積しているのが現状です。我われの地域の重要課題である普天間基地問題もその一つです。

戦後68年が過ぎてもなお解決出来ない基地問題とは何なのでしょう。日米同盟における日本の役割の中で、沖縄県が占める基地の加重負担。それに伴う人権問題や環境問題。派生的に発生する雇用問題や土地の利権問題など、複合的に問題が絡みあい解決の糸口が見えないまま時間だけが過ぎていったように感じます。しかしそれは問題を先送りして、子や孫の世代にバトンタッチする理由にはならないし、これまでのように責任を国や政府に任せ、行政に代弁をしてもらい、マスコミが流す情報を受身で取っているだけでは何も変わらないのです。

安易に賛成や反対を唱えることは出来ないけれども、我われがこれまで行ってきた事業の経験を活かし、問題の真ん中にいる市民に当事者意識を持ってもらい、共に解決に向けて喚起することが必要です。それには、勇気と行動力、気概と覚悟が求められてきますが、我われなら出来ると信じています。いまこそ行動の時です。

アイデンティティ ～家庭、会社、地域、国を想うということ～

J Cで学んだ大きな事柄の一つが、「日本人としてのアイデンティティを考えるようになった」ことです。J Cのセレモニーでは必ず国歌斉唱を行います。私自身を含め入会当初ほとんどの方が歌えなかったのではないのでしょうか。我々は国旗掲揚を習慣とせず、君が代を習わない教育を受けてきました。その偏向教育の結果、日本という国に馴染めず、沖縄という島に無意識の中で帰属意識を芽生えさせていたように思います。それは、「武士道」や「大和魂」、「日本男児」という精神性や道徳心を表す言葉でさえも、自分の中で消化が出来ず、遠い異国の言葉のように感じ、沖縄≠本土というロジックを形成してしまったのかもしれない。

愛する家族が住むこの地域を大切に想うこと、古くから継承されてきた伝統・芸能・文化・言葉に誇りを持つことはとても素晴らしいことです。しかしそれは、日本人としてのアイデンティティの中で生まれ、うちなんちゅのDNAを誇りに持つことであるべきで、決して沖縄と本土を分けて考えるものであってはならないのです。

家族を想い、地域を愛し、国を誇りに思う人材こそ、世界に通じる人材へと成長していくと思うし、そのためには沖縄だけを特別視するのではなく、日本人として同じフィールドで問題や課題にぶつかることが、物事を解決していく支柱になると思います。そのためにも我われJ a y c e eがアイデンティティというものをしっかりと捉え、親として、大人としての背中を見せ、その絆を深めることに努めてまいりましょう。

「世界はやさしく愛に満ちた人たちだけがいるのではなく、
どうしようもなく卑劣で愚かな人間や
闇が存在していることも子供に教えなくてはならない。
ナイーブなままでは生きて行けない。
しかし、それでも圧倒的に多数の人々は思慮を持ち、
静かに調和の中で暮らしている。

このことを子供に伝えなくてはいけない。
子供だからといって純粋で無垢なままの存在ではない。
その白紙のページに何が書き込まれ、どう染まっていくかは大人次第だ。

そして、大人だからといって
ただ年を取っている以外に何かを学んでいるとは限らない。」

地域経済の活性化 ～ミヤノミクス～

2009年8月、民主党による歴史的な政権交代が行われた後、日本の政治は国内外を問わず混迷を極めました。その反動により2012年の衆議院解散総選挙、2013年の参議院選挙ともに自民党が圧勝したものの、政党は乱立し、国民の政治に対する無関心はますます拍車がかかり、投票率の低下は国家を揺るがす事態に陥っています。そんな中、安倍政権は長期に渡るデフレと景気低迷からの脱却を掲げ、アベノミクスと呼ばれる3本の矢を実施していますが、景気回復の期待感はあるものの、まだまだ市民が実感できる効果は現れていないように感じます。

地域主権、地方分権が叫ばれて久しい昨今、沖縄県においては、昨年度より全国に先駆け一括交付金制度がスタートし、今年閣議決定された骨太方針では初めて「沖縄」が明記され、「日本のフロントランナーとして21世紀の成長モデルとなり、日本経済活性化の牽引役となるよう、国家戦略として、沖縄振興策を総合的・積極的に推進する。」とされました。

この日本の重責を担う一括交付金が、我われの活動エリアである宜野湾市・北中城村・中城村においてどのような計画で何に使われるのか、JAYCEEが熟知し、真の地域主権を確立するためにも学ぶ必要があります。行政やJCネットワークを最大限に活用し、地域が元気になる人や物の創出の一助になれるよう取り組んでまいりましょう。

そしてもう一点。女性の社会進出は全国的にも進んでいます。活動エリアである3市村においても推進していきたいと思えます。共働きが多い現代ですが、意欲のある女性が正社員や独立する環境はまだまだ整備されていないのが現状です。その問題点を解決することは難しいかもしれませんが、支援という所にフォーカスをあて、底上げを図ることは十分に可能なことだと思います。

我われJAYCEEは地域に住む一市民として、そして地域を担う責任世代として、どのようなことにおいても市民が参画しやすい機会を創出していくことが大切だと感じます。その先に我々の目指す「明るい豊かな社会」が待っていると強く感じるのです。

会員拡大 ～遊びぬちゅらさ にんじゅぬすなわい～

宜野湾JCには最高の仲間がいます。私はその仲間と出会い、共に歩んだ時間があるからこそ今の私があります。そして、どれほど成長させてもらったかは自分が一番良く知っています。そんな最高の宜野湾JCだから、仲間を増やしたいと思うのは当然のこと。

人は人によって成長させてもらおう生き物です。JCに入会した動機やそこに求めるものは一人ひとり違って、人の出会いは必然的で必ず意味があると思っています。一年という長い月日の中で我われは多くのことを経験するでしょう。それはいいことばかりではないかもしれない。でもこのチームなら、苦しみを半分にし、喜びを2倍にすることが出来ると思っています。

2014年度社団法人宜野湾青年会議所は、JCの4つの機会「地域開発・国際の機会・

個人開発・ビジネスの機会」と、「奉仕・修練・友情」の3信条を前面に出して、60名体制を目指します。
日本一のパワフルLOMとして「宜野湾」の名を轟かせよう。
ドーンといこう！

結びに ～少しだけ 今日より明日はいい日になる～

「我われの運動でこの街を変えることは出来ないかもしれない。この街にとって我われの運動は微力かもしれない。でも決して無力ではない。この街を変えようと本気で取り組んだ我われは少なくとも変わることが出来たから。」

J Cは結果が全てではありません。逆に言えば失敗してもいいということです。大切なことは一年という限られた時間の中で、チャレンジ精神を持って、それぞれが与えられたポジションでトレーニングに励み、プロセスを楽しみながら、前に進んで行くことがJ Cの醍醐味だと感じています。地域の歴史を知ることや、地域の抱える問題に取り組むこと、それらを俯瞰し、自身の中に落とし込むこと。少しでも今より成長出来ることが人材育成であって、人の成長こそが地域の宝なのです。

2014年12月31日にメンバー全員が笑顔で締めくくれるように、理事長として多くの気付きを皆さんに提供出来るように、精一杯邁進してまいりますので、共に想い、共に考え、共に行動する一年にしましょう。
未来はいつでも希望に満ちています。

基本方針

全てのメンバーが事業に参画し、全てのメンバーが成長する運動を展開する。

事業計画

1. 公益社団法人として社会の負託に応える組織を目指し、運動面・財政面のチェックを行い、しっかりとした運営を実施します。また、助成金の取得、資金造成事業を実施します。
2. 7・5・3の事前配信を基礎とした理事会運営を実施します。また、ホームページやSNSを活用した広報を行い、OB等へメールにて事業案内や事業報告を行います。
3. この地域の最重要課題である普天間基地問題について、それを取り巻く現状の把握、移設・撤去に対する市民の世論喚起事業を展開します。
4. 地域経済の活性化を図るため、国や県の施策の勉強会や女性が活躍できるビジョンを創出する事業を展開します。
5. 親子の絆を通して、日本人としてのアイデンティティを芽生えさせる事業を実施します。
6. 60名体制に向けて、会員拡大を図ります。
7. メンバー同士がお互いを知り、地域に存在する様々な問題を認識し、運動へと展開出来る人材育成事業に取り組みます。
8. ブロック大会の主管LOMとして、3市村の特色を活かした事業を構築します。